

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年03月02日

計画の名称	幸田駅前の顔となる中心市街地における利便性の向上、にぎわいの再生、安全で安心なまちづくりの実現（防災・安全）												
計画の期間	平成29年度～令和3年度（5年間）								重点配分対象の該当	H29-H31			
交付対象	幸田町												
計画の目標	幸田町の顔というべき中心市街地において土地区画整理事業を進め、幸田駅へのアクセス道路でもある都市計画道路の整備（歩道設置、無電柱化など）を行うことにより利便性の向上と、安全で安心なまちづくりの実現を図る。また、幸田駅の前面の土地利用において商業系利用を推進し、にぎわいの再生へと繋げる。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	387	A	387	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H29当初)	中間目標値	最終目標値 (R03末)
1	幸田駅前の交差点の朝の通勤・通学時間帯（午前6時から午前8時30分）における渋滞回数を13回から10回へ減少 幸田駅前交差点の朝の通勤時間帯における渋滞回数を調査する 渋滞回数＝一回の信号で交差点を通過できない場合の回数	13回	回	10回
2	幸田駅前における歩行者自転車交通量を2,150人/日から2,250人/日へ増加 幸田駅前における歩行者自転車交通量を調査する	2150人/日	人/日	2250人/日
3	幸田駅前土地区画整理事業地内の歩道安全対策率を増加させる 幸田駅前土地区画整理事業地内の歩道安全対策率を調査する 歩道安全対策率＝電線共同溝実施延長/幹線道路における歩道延長	18%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	---------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------



事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

幸田町で実施

事後評価の実施時期

事業終了後（令和4年度）

公表の方法

幸田町のホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

区画整理事業としては、平成18年度に認可を受け平成21年度から工事着手し、計画期間の令和2年度に幹線道路（（都）芦谷高力線、（都）芦谷蒲郡線）の整備（電線類地中化含む）を終えた。そのため、幹線道路が交わる交差点の渋滞の緩和や歩道の安全化が図られた。また、工事の進捗に合わせ土地活用も進み、交差点の両側が商業施設となったことで、交差点の人の流れ（歩行者自転車交通量）も増加した。なお、歩行者自転車交通量の増に関する補足説明として、当該交差点は駅前にあるため、駅へ徒歩及び自転車で通う人もカウントされることとなるが、直近10年で最大の乗降客数であった令和元年に対して、最新値令和3年は2割弱減少しているにもかかわらず、歩行者自転車交通量が増える結果となった。

定量的指標以外の交付対象事業の  
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

区画整理事業としては、令和3年度ですべての工事が終了した。  
今後は、令和5年度に換地処分が行えるよう事務手続きを進めていく。

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
1	渋滞回数の減少	
	最終目標値	10回
	最終実績値	0回
2	歩行者自転車交通量の増加	
	最終目標値	2250人/日
	最終実績値	3258人/日
3	歩道安全対策率	
	最終目標値	100%
	最終実績値	100%

(参考図面)

